

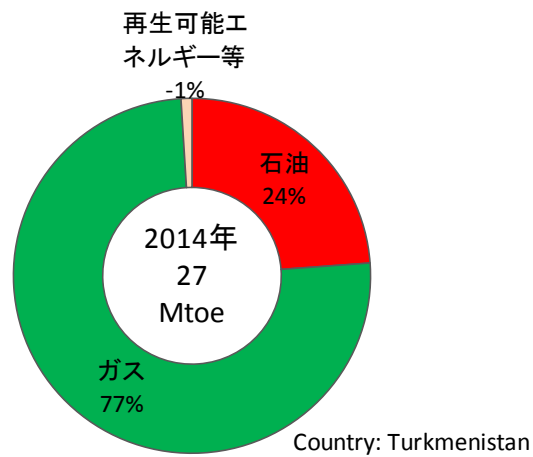
## 2-17 トルクメニスタン

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

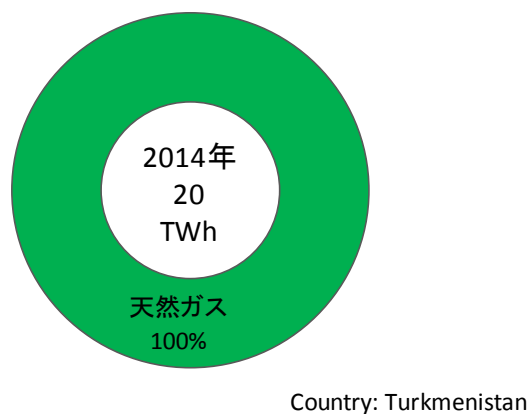
- (1) 一次エネルギー総供給量 (2014年) : 27 百万 toe (日本の 0.06 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2014年) : 5.04 toe (同 1.4 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2014年) : 292%
- (4) エネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量 (2014年) : 67.0 百万 CO<sub>2</sub> 換算 ton (同 5.6%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO<sub>2</sub> 排出量 (2014年) : 12.62 CO<sub>2</sub> 換算 ton (同 135.0%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015 年末) : 原油 6.3 年、天然ガス 100 年以上

一次エネルギー供給構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

## 2. エネルギー政策のポイント

### (1) エネルギー政策担当機関

- 炭化水素資源利用管理庁 (State Agency for Management and Use of Hydrocarbon Resources) が石油・天然ガス田の開発管理、外資との資源開発契約を所管する。
- 石油・ガス産業・鉱物資源省が同国の石油・天然ガス・化学産業を管轄し、エネルギー省 (Ministry of Energy) は電力分野を所管する。

### (2) 基本政策

- 国内に賦存する原油・天然ガスを開発・生産し、輸出することで外貨を獲得することを基本政策とする。
- 天然ガスの生産量および輸出量の増加、輸送ルートおよび輸出先の多様化が重要課題。Berdimukhamedov 大統領は国内石油・天然ガス開発への外資導入方針へと転換するなど、エネルギー開発において外資に開放的な姿勢を見せている。また、中国やイラン向けの天然ガスパイプライン新設・輸送能力増強により、天然ガス輸出先を多様化している。

### (3) 最近の動向

- 2013年9月、世界第2位の天然ガス埋蔵量を誇る Galkynysh 鉱区のガス生産処理施設の開所式が行われた。同鉱区ガス生産量は第1段階 30Bcm/年、第2段階 30Bcm/年 (計 60Bcm/年) を目標とする。
- トルクメニスタンと韓国は 2015年4月、製油所近代化と GTL プラントの建設の枠組合意文書に調印した。Hyundai Engineering Co.Ltd. と LG International Corp. のコンソーシアムは、Turkmenbashi 製油所の近代化プロジェクト (総額 US\$9.4 億) の一部として、ガソリン・ディーゼル脱硫装置の設計・建設を行う。Hyundai Engineering & Construction Co.Ltd. と LG International Corp. のコンソーシアムは、自動車用燃料を製造する GTL プラント (天然ガス処理能力 380Mcm/年) を首都 Ashgabat 近郊に建設を目指す。

## 3. 日本とのエネルギー分野における関係

- わが国との間ではエネルギー貿易は行われていない。
- 東洋エンジニアリングは 2014年4月、韓国勢との協業で、Turkmengaz 向け大型ガス化学工場を受注内定した。完成は 2018 年を予定。
- トルクメニスタンの GTL 石油化学プロジェクトが 2014年7月に着工した。同国の Ahal Vilayat に GTL 工場を建設する構想であり、2013年9月の大統領訪日時、Turkmengaz と日本の川崎重工業とトルコの Renaissance Heavy Industries が契約調印した。
- 2015年10月、安倍首相がトルクメニスタンを訪問した際、両国企業が総額 US\$180 億超のガス化学プラント他プロジェクトの基本合意あるいは枠組合意を締結した。

## 2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Turkmenistan

(2014年)

|                                     |            |                               |
|-------------------------------------|------------|-------------------------------|
| (1) 一次エネルギー供給量                      |            | 27 Mtoe                       |
| (2) 一人当たりの一次エネルギー供給                 |            | 5.04 toe/人                    |
| (3) GDP当たりの一次エネルギー供給                |            | 0.78 toe/千ドル                  |
| (4) エネルギー自給率                        |            | 292 %                         |
| (5) エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量      |            | 67.0 百万CO <sub>2</sub> 換算ton  |
| (6) 一人当たりエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量 |            | 12.62 CO <sub>2</sub> 換算ton/人 |
| (7) エネルギー源別構成率                      | 石炭         | 0 %                           |
|                                     | 石油         | 24 %                          |
|                                     | 天然ガス       | 77 %                          |
|                                     | 原子力        | 0 %                           |
|                                     | 水力         | 0 %                           |
|                                     | 再生可能エネルギー等 | -1 %                          |
| (8) エネルギーの輸入依存度                     |            | -192 %                        |
| (9) 石油の輸入依存度                        |            | -97 %                         |
| (10) 輸入原油の中東依存度                     |            | - %                           |
| (11) 天然ガスの輸出先                       | 第1位        | 中国                            |
|                                     | 第2位        | イラン                           |
|                                     | 第3位        | カザフスタン                        |

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA

(10)～(11) : Natural Gas Information 2016, IEA